肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）の接種を!!

■肺炎は

肺炎は、日本人の死因第4位の病気で、重症化すると命にもかかわる病気です。また、心臓病や何らかの病気をすでにもっている方は、肺炎とともに基礎疾患も重症化する場合があり、肺炎による死亡率が高くなる原因ともなっています。

■肺炎球菌ワクチンとは

肺炎を起こす病原体はいくつかありますが、その中でもっとも多い原因菌が「**肺炎球菌**」です。（特にインフルエンザの流行時期にみられる肺炎の60%近くが「肺炎球菌」によるものと言われています）
肺炎球菌は私たちの身近に存在する菌で、のどや鼻の奥にいる場合が多くみられます。普段はおとなしく悪さをしない「肺炎球菌」も、持病などで体力が低下したり、インフルエンザや風邪などをこじらせたりすると動きだし、肺炎を発症してしまうことがあります。治療には抗菌剤が使われますが、耐性菌（菌をやっつけるお薬が効かない菌）も出てきており、問題となっています。そのため、肺炎にかかってしまう前に、手洗い、うがいなどの感染予防を日常的に行うのはもちろんですが、ワクチンを接種し、あらかじめ肺炎を「予防する」ことが大切です。また、肺炎にかかっても重症化を防ぐという意味でも、ワクチンの予防接種は重要です。同時にインフルエンザのワクチンも流行前に接種し、インフルエンザにかからないようにすることも肺炎を防ぐには非常に大切なことです。（アメリカでは、左右別々の腕にインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの同時接種が許可されているほどです。）

■肺炎球菌ワクチンの接種を受けましょう!!

65歳以上の方、または心不全、肝硬変、慢性の呼吸器の病気など、肺炎にかかりやすく重症化しやすい方などに接種をおすすめします。ワクチンを受けたほうがいいか、接種時期などは院長先生にご相談いただき、ご検討ください。現在、肺炎球菌ワクチンは保険適応外のため、全額自費となります（脾臓摘出された方にのみ保険適応があります）。インフルエンザワクチンなどと比べると、接種費用が高く感じるかも知れませんが、1回の接種で5年間は有効なワクチンなので、実質1年間でかかる費用と効果をお考えいただければ、それほど高額ではありません。（肺炎球菌ワクチンは、短期間で再接種すると接種部位に強い副反応がみられることから、再接種は5年以上の間隔をあけることになっています。すでに他院で接種されたことがある方はお申し出下さい。）